



# 社会福祉法人川崎愛児園

## 令和3年度 事業報告書

児 童 養 護 施 設	川 崎 愛 児 園
地 域 小 規 模 児 童 養 護 施 設	野 川 つ く し ホ ー ム
地 域 小 規 模 児 童 養 護 施 設	野 川 す み れ ホ ー ム
地 域 小 規 模 児 童 養 護 施 設	生 田 あ や め ホ ー ム
川 崎 児 童 自 立 援 助 ホ ー ム	大 志
川 崎 児 童 自 立 援 助 ホ ー ム	こ も れ び
ま ぎ ん 児 童 家 庭 支 援 セ ン タ ー	
児 童 養 護 施 設	白 山 愛 児 園
地 域 小 規 模 児 童 養 護 施 設	結
地 域 小 規 模 児 童 養 護 施 設	紬
は く さ ん 児 童 家 庭 支 援 セ ン タ ー	

---

# 目次

I 社会福祉法人川崎愛児園事業報告 .....	1
法人全体の取り組み .....	2
地域における公益的な取り組みの推進 .....	12
子育て短期利用事業 .....	13
川崎市学習支援・居場所づくり事業「すえっ子広場」 .....	14
居場所づくり事業「あいあい」 .....	14
II 事業所事業報告 .....	15
児童養護施設 川崎愛児園 .....	15
地域小規模児童養護施設 野川つくしホーム .....	17
地域小規模児童養護施設 野川すみれホーム .....	19
地域小規模児童養護施設 生田あやめホーム .....	22
川崎児童自立援助ホーム 大志 .....	25
川崎児童自立援助ホーム こもれび .....	27
まぎぬ児童家庭支援センター .....	29
児童養護施設 白山愛児園 .....	34
地域小規模児童養護施設 結 .....	36
地域小規模児童養護施設 紬 .....	38
はくさん児童家庭支援センター .....	40
<b>別紙 1</b> 在籍児童数 .....	45
<b>別紙 2</b> 職員配置 .....	48

## 【法人ロゴマークの意味】



「K」「A」の組み合わせに、簡略化した「千鳥（縁起の良い和模様の一つ）」を入れたデザイン。  
語呂合わせで「千鳥＝千取り→千の福を取る」ということから、千鳥は「目標達成」や「たくさんの幸せがやってきますように」という意味を持ちます。

# I 社会福祉法人川崎愛児園 事業報告

令和3年度の事業運営については、法人の基本理念・施設の基本方針・養育目標・並びに各部門の事業計画に基づき着実に事業を推進しました。

## (養育支援)

家庭から離れるという喪失感を抱えた子ども達が自らの持つ可能性に気づき、将来に希望を抱きながら成長できるよう、身体的、及び精神的な自立を目指した支援を実践しています。国・自治体の掲げる自立支援制度が充実してきた中でこどものキャリア教育の強化にも取り組みました。併せて地域や外部の支援者と協同で取り組むことで、こどもが多様な価値観と触れ合いながら成長できるよう取り組みました。

川崎市が掲げる社会的養育推進計画に準じて、新規事業として地域小規模児童養護施設「紬」、児童自立援助ホーム「こもれび」の運営を開始しています。

## (法人組織体制の強化)

事業拡大に伴い法人全体の体制強化を図る中で、法的なトラブル・リスクにも対応できるよう顧問弁護士との契約を結んでいます。併せて産業医と契約を結び職員のメンタルヘルスケア強化にも取り組みました。苦情解決の体制においては新たに第三者委員を設置し、従来その役割を担っていた権利擁護虐待防止委員の位置付けを整理することでそれぞれの機能強化を図りました。また、ガバナンス強化に向けて法人施設連携会議を中心に事業所ごとの業務点検や課題解決に向けた取り組み検討を推進しています。

## (人材育成・確保)

研修を通じて社会的養護の現状や、法人の果たすべき役割を示し、職員一人ひとりが社会における使命感や貢献心を抱きながら働けるよう努めました。階層別の育成では階層ごとに求められる能力・姿勢を示し、そこから見える現状の課題について取り組みました。また法人内交換研修の実施を通して各職員が配属部署のみならず、様々な業務を経験することで個々の育成や法人全体の体制強化に繋がっています。人材確保に関する取り組みでは養成校との連携強化や、求人サイトの活用を通して12名の新規職員採用に繋がりました。

## (地域支援)

「児童家庭支援センター」を中心に、潜在的なものを含めた支援ニーズのある家庭に対し、主体的にアプローチを行い虐待予防に努めました。支援ニーズの中には新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、孤立した子育て環境が要因と考えられるケースも多く、法人の支援に加えて他の社会資源と繋がる役割にも努めました。一時預かり事業や子育てサロン等の取り組みでは新規の利用希望が増加しており、そのニーズの高さが現れています。各事業所ごとに設置している地域協議会では民生委員や町内会、教育機関に参加を依頼し、地域全体の福祉課題の共有や協力体制の構築に繋がっています。

# 1 法人全体の取り組み

## (1) 健全な法人組織運営

### ① 理事会及び評議員会の開催

#### ア 理事会

令和4年3月31日現在

開催日	議 題
令和3年4月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人の役員等の報酬の支給基準・総額の確認について</li> <li>・社会福祉法人 川崎愛児園 役員等報酬規程変更(案)について</li> <li>・社会福祉法人 川崎愛児園 定款変更(案)について</li> <li>・評議員選任・解任委員の改選について</li> <li>・役員及び評議員にかかる賠償責任保険の加入について</li> <li>・令和3年度 第1回評議員会の開催(案)について</li> <li>・新規事業認可申請について</li> </ul>
令和3年6月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第1次補正予算(案)について</li> <li>・令和2年度 社会福祉法人川崎愛児園 事業報告(案)について</li> <li>・令和2年度 社会福祉法人川崎愛児園 決算報告(案)について</li> <li>監事監査報告</li> <li>・役員候補者の推薦について</li> <li>・評議員候補者の推薦について</li> <li>・評議員選任解任委員会の開催日時及び場所並びに議案・議題の決定について</li> <li>・定時評議員会の開催日時及び場所並びに議案・議題の決定について</li> <li>・理事長の職務執行の状況報告について</li> </ul>
令和3年6月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長の選定について</li> </ul>
令和3年11月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第2次補正予算(案)について</li> <li>・令和4年度川崎市学習支援・居場所づくり事業の委託事業者応募について</li> <li>・令和3年度 第3回評議員会の開催(案)について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 中間事業報告について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 中間収支報告について</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る報告について</li> <li>・産業医・弁護士顧問契約及び権利擁護虐待防止委員選任について</li> <li>・理事長の職務執行状況報告について</li> </ul>
令和4年3月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護従事者処遇改善費支給に伴う社会福祉法人川崎愛児園 給与規定変更(案)について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第3次補正予算書</li> </ul>

	<p>(案) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 社会福祉法人川崎愛児園 事業計画 (案) について</li> <li>・令和4年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支当初予算書 (案) について</li> <li>・社会福祉法人川崎愛児園 苦情解決システム規定変更 (案) について</li> <li>・令和3年度 第4回評議員会の開催 (案) について</li> <li>・令和4年度川崎市学習支援・居場所づくり事業 選考経過報告について</li> <li>・理事長の職務執行の状況報告について</li> </ul>
--	--

## イ 評議員会

令和4年3月31日現在

開催日	議 題
令和3年5月11日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人の役員等の報酬の支給基準・総額の確認について</li> <li>・社会福祉法人 川崎愛児園 役員等報酬規程変更 (案) について</li> <li>・社会福祉法人 川崎愛児園 定款変更 (案) について</li> <li>・評議員選任・解任委員の改選について</li> <li>・役員及び評議員にかかる賠償責任保険の加入について</li> <li>・新規事業認可申請について</li> </ul>
令和3年6月18日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度 社会福祉法人川崎愛児園 決算報告 (案) について 監事監査報告</li> <li>・理事・監事の選任について</li> <li>・令和2年度 社会福祉法人川崎愛児園 事業報告について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第1次補正予算について</li> </ul>
令和3年11月15日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第2次補正予算 (案) について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 中間事業報告について</li> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 中間収支報告について</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る報告について</li> <li>・令和4年度川崎市学習支援・居場所づくり事業の委託事業者応募について</li> <li>・産業医・弁護士顧問契約及び権利擁護虐待防止委員選任について</li> </ul>
令和4年3月14日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支第3次補正予算書 (案) について</li> <li>・令和4年度 社会福祉法人川崎愛児園 事業計画 (案) について</li> <li>・令和4年度 社会福祉法人川崎愛児園 資金収支当初予算書 (案) について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護従事者処遇改善費支給に伴う社会福祉法人川崎愛児園 給与規定変更について</li> <li>・施設長の任免について</li> <li>・社会福祉法人川崎愛児園 苦情解決システム規定変更（案）について</li> <li>・令和4年度川崎市学習支援・居場所づくり事業 選考経過報告について</li> </ul>
--	---

## ② 監事監査の実施

開催日	内容
令和3年5月27日（木）	社会福祉法に基づき監事監査を実施

## ③ 法人組織体制の強化

### ア 法人事務局業務の再整備

法人事務局業務の整理及び担当者の責任と権限を明確化できるよう努めました。

### イ 法人組織規程の見直し

未実施

## ④ 給与規定他、諸規定の改訂

役員等報酬及び処遇改善支給に伴う規程変更、定款変更を行いました。

## (2) 各事業所の安定的な運営と財務基盤の強化

### ① 各事業所の運営状況の把握と財務・会計管理

運営状況については、毎月開催する運営会議で各部署の管理者から月次報告があり、事業運営・管理に関わる事項に対して検討・分析を行いました。

会計については、会計担当者が仕訳伝票入力を随時行い、数値の確認を会計ソフト会社 MAN90 と行っています。また、事務会議にて措置費・補助金の請求及び精算の進捗状況を毎月確認し、運転資金管理を行いました。

財務状況については、令和4年度3月末現在、現預金・積立金合わせて約8.1億円の資金を保有しています。

### ② 適正な職員配置（国基準職員・川崎市加配職員）

別紙参照

### ③ コスト意識の醸成

児童養護施設やホームにおける光熱水費・給食費・生活費等の支出について月次推移表を作成して予算との対比を行っています。執行状況については職員会議で共有しています。

### (3) 事業運営の透明性

#### ① 広報誌の作成及び情報発信

##### ア 広報誌の作成と配布数

令和4年3月31日現在

施設名	広報誌名	発刊月	配布数
川崎愛児園	さくら	10月発刊	1500部
白山愛児園	わかば	12月発刊	600部

##### イ ホームページによる情報発信

令和4年3月31日現在

更新日	区分	内容
4月2日	法人	職員募集ページ更新
4月26日	法人	職員募集ページ更新
4月30日	まぎぬ児童家庭支援センター	オンライン親子カフェ「ベビーマッサージ講座」案内
4月30日	まぎぬ児童家庭支援センター	「ペアレントトレーニング講座」募集案内
5月10日	はくさん児童家庭支援センター	発達が気になるお子さんを支える保護者講座「親オヤ!？」案内
5月19日	法人	職員募集ページ更新
6月21日	法人	職員募集ページ更新
7月16日	法人	職員募集ページ更新
8月4日	法人	「沿革」「ご挨拶」更新
8月11日	法人	「情報公開」更新
8月23日	まぎぬ児童家庭支援センター	親子カフェ「ヴァイオリンとピアノの生演奏がやってくるよ」 日程変更
9月14日	法人	職員募集ページ更新
10月18日	法人	愛児園祭り中止のお知らせ
10月18日	法人	職員募集ページ更新
10月27日	はくさん児童家庭支援センター	発達が気になるお子さんを支える保護者講座「親オヤ!？」案内
11月5日	川崎愛児園	寄付者一覧 更新
11月15日	白山愛児園	寄付者一覧 更新
11月19日	はくさん児童家庭支援センター	発達が気になるお子さんを支える保護者講座「親オヤ!？」案内
12月2日	法人	職員募集ページ更新
12月27日	はくさん児童家庭支援センター	発達が気になるお子さんを支える保護者講座「親オヤ!？」案内
2月10日	まぎぬ児童家庭支援センター	親子カフェ「心を育てる絵本講座」案内
2月25日	白山愛児園	広報誌掲載
3月22日	法人	新型コロナウイルス感染確認のご報告
3月28日	法人	不審メールに関するお知らせ

#### (4) 人材の獲得・育成及び定着に向けた取り組み

##### ① 養成校との連携・関係強化

###### ア 養成校への講義、講演

学校名	日数	内容
國學院大學	1	社会的養護や児童養護施設の実態についての講義
田園調布学園大学	1	
東洋大学	1	

###### イ 養成校からのインターンシップ受け入れ

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、受け入れは中止となりました。

###### ウ 実習懇談会の参加

施設名	学校名	日数	内容
川崎愛児園	横浜こども専門学校	1	実習連絡会
	東京都市大学	1	実習連絡会
白山愛児園	横浜女子短期大学	1	実習連絡会
	大妻女子大学	1	実習連絡会
	田園調布学園大学	2	実習連絡会
	東洋大学	1	実習連絡会

##### ② ホームページ、就職情報サイトマイナビを活用した適正配置に向けた採用活動の実施

###### ア ホームページ・マイナビ経由

令和4年3月31日現在

項目	令和3年度	令和2年度	前年度比
見学者数	43名	57名	75%
受験者数	16名	34名	47%
内定者数	10名	18名	55%

###### イ その他経由

令和4年3月31日現在

項目	令和3年度	令和2年度	前年度比
見学者数	3名	3名	100%
受験者数	2名	3名	66%
内定者数	2名	3名	66%

### ③ 実習生の積極的な受け入れ

令和4年3月31日現在

施設名	川崎愛児園			白山愛児園		
	令和3年度	令和2年度	前年度比	令和3年度	令和2年度	前年度比
学校数	18	13	138%	30校	14校	214.29%
人数	33	21	157%	32名	16名	200%
延べ日数	315	224	140%	316日	173日	182.66%

### ④ 人材育成の充実

#### ア 職員階層別研修（新任・中堅・指導）

令和4年3月31日現在

開催月	研修名	人数	内容
3月	入職前研修	18	諸規定について 児童福祉の概況 子どもの発達 権利擁護 等
5月	中堅研修	41	報連相について 法人の求める人材とは チームアプローチ
6月	新採用職員フォローアップ研修	18	業務の振り返り 法人の求める人材とは 児童の行動理解 組織とは
7月	指導者研修	29	報連相について 人材育成 リーダーシップ 法人の中長期計画
9月	新任（2～3年目）研修	23	報連相について 法人の求める人材とは 取り組むべき課題
10月	中堅研修	39	経験と知識の整理・共有 後輩職員の育成 課題に関する意見交換
11月	指導者研修	29	部署のマネジメントについて スーパーバイズ メンタルヘルス
12月	新任研修	40	仕事への取り組み方について コスト意識 服務規律
1月	中堅研修	41	養育の在り方について 中堅職員に求められる役割 指導者との連携
3月	指導者研修	31	川崎市社会的養育推進計画について リスクマネジメント

#### イ 個人計画シートの作成

6月に全職員が施設長・上長と面談し個人計画シートを作成しました。10月に中間評価、3月には総合評価を実施し、達成度を評価しました。

#### ウ OJT 研修の実施

- ・4月から6月はチューター職員が担当の新採用職員と同じシフトに入りOJTと面接を実施しました。また7月以降は毎月、上長も含めた振り返り面接を個別に実施しました。
- ・指導者にあたる職員が、各ユニットを巡回してのOJTを毎週実施しました。ルーティン業務（掃除・記録等）が完了しているか、こどもと職員の関係はどうか等を確認しながら修正すべき点について助言しています。
- ・人材育成チェックリストを活用しで各業務のあるべき姿を示しました。各業務の理解度や達成度を目に見える形で共有することで効果的な人材育成に繋がっています。

#### エ 法人内部交換研修

年間50回の実施を計画していましたが、コロナ禍の影響もあり12回実施にとどまりました。配属以外の部署で勤務経験を積むことで法人全体の体制強化に繋がっています。

## (5) 職場の処遇改善及び職場環境の整備

### ① ストレスチェックの実施による職員健康管理の推進

全職員を対象にストレスチェックを実施し、精神の健康状態を確認しました。心理的負担の高い職員には産業医や心理士との面接を設け、負担軽減に向けた解決策を話し合いました。

### ② 安全衛生委員会による職場環境の整備

快適な職場環境形成のために毎月1回会議を開催し、コロナをはじめとした感染症対策や食中毒対策等に取り組みました。メンタルヘルスの観点から職場のストレス要因の分析についても話し合っています。

## (6) ヒヤリハット・事故

各園における事故報告数

令和4年3月31日現在 (単位: 件)

区 分	川崎愛児園	つくし	すみれ	あやめ	大志	こもれび	白山愛児園	結	紬
通院を伴う治療や処置	14	3	0	0	0	0	12	4	2
入院等の長期治療	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ件数	14	3	0	0	0	0	12	4	2

各園におけるひやりハット数

令和4年3月31日現在 (単位: 件)

区 分	川崎愛児園	つくし	すみれ	あやめ	大志	こもれび	白山愛児園	結	紬
自傷行為	1	0	0	0	0	0	0	0	0
他の児童に対する行為	9	4	0	0	0	0	0	0	0
職員に対する行為	3	0	0	0	0	0	0	0	0
器物破損	7	0	0	0	0	0	1	1	0
逸脱行為	10	0	0	0	0	0	0	0	0
転倒・転落	46	1	3	2	0	0	3	4	0
打ち付け・挟み込み	27	0	0	0	0	0	0	0	0
衝突	22	0	0	0	0	0	2	0	0
火傷	4	0	0	1	1	0	0	0	0
異食・誤飲・誤食	3	0	0	0	0	0	1	0	0
交通事故	2	1	0	0	0	0	1	3	0
その他	7	1	2	0	0	2	28	4	4
計	141	7	5	3	1	2	36	12	4

### 傾向と対策の検討

大きな怪我等を負う事故は発生していません。川崎愛児園のヒヤリ・ハットは発達障害を抱えているこどもなど、特定のこどもの割合が多くなっています。余暇活動中の転倒が多く、怪我に繋がらないよう環境面にも配慮しています。火傷についてはヒヤリハットとなる場面がドライヤーの使用や料理の場面でありましたが、実際の火傷まではいっていません。必要に応じて備品も安全面に配慮したものに買い替えました。

白山愛児園ではハインリッヒの法則を改めて職員に周知し、ヒヤリ・ハット報告を上げることの意義を再確認して取り組みました。また、こどもに紐づかないヒヤリ・ハット報告があげられる仕組みを整備して取り組みました。今年度のこどもに紐づかないヒヤリ・ハット報告数は14件でその他に計上しています。こども達が生活する中で怪我や事故に繋がらないように環境面の整備に配慮しました。

その他の内訳としては、ユニットからの飛び出しや幼児が2段ベットに登ろうとするなどがあります。ユニット内での余暇活動時間が増え、こども同士のトラブルが多くなったため、余暇活動の充足やこども達のストレス発散に取り組みました。

## (7) 苦情解決

### ① 苦情解決の仕組み強化

- ・仕組み強化の取り組みとして苦情受付担当者を各事業所ごとに配置しました。
- ・苦情解決に関する「第三者委員」を新たに設置しました。併せて苦情対応に関する規定やフローチャートを更新し、周知を図りました。

### ② 権利擁護虐待防止委員会の開催

開催日	議題
10月9日	現状報告と意見交換  こどもからの相談ツールについて  新規委員の紹介
12月24日	現状報告と意見交換  虐待予防について  クリスマス会参加

### ③ 苦情内容

令和3年度は3件の苦情がありました。

- ・すえっこ広場の開催場である市営住宅の住民から活動に伴う騒音について苦情がありました。地域支援の苦情受付担当者が苦情解決担当者に報告し、迅速に対応することで解決しました。
- ・すえっこ広場で複数名、新型コロナウイルス陽性が判明したことで、参加者から活動中の感染対策や情報共有が十分ではなかったのではとの苦情がありました。川崎市にも報告・協議する中で対応を検証し、改善点を示しました。
- ・自立援助ホーム「こもれび」に対し隣に住む住民から、利用児童が敷地内にゴミを廃棄しているとの苦情がありました。苦情解決担当者が謝罪するとともに当該児童にも指導しています。

## (8) 権利擁護

### ① こどもの意見表明の機会の保障

#### ア 子ども集会の開催

毎月1回こどもの意見表明の場として開催しました。感染対策の一環でZOOMを使用しての開催でしたがこども間で園のルールや過ごし方について話し合いました。生活するユニット・ホームごとに子ども達が生活目標を立て、毎月取り組んだことを発表する機会も設けました。

#### イ イエローカード・いいこと募金カードの活用

小学生から他児への不満で5件あがりましたが担当者が話を聞くことで解決しました。対応の中では思いを受け止めるとともに、解決につながる具体的な関り方を確認しました。いいこと募金カードは80枚を超える提出があり、こどもから他児の良い所を褒める内容が多くありました。

### ② 職員の権利擁護に対する意識強化

#### ア 被措置児童等虐待防止規定の周知徹底を図る研修会の開催

5月の全体会議にて研修会を開催し周知徹底を図りました。

#### イ 人権擁護チェックリストを年3回実施

7月・11月・3月に実施しました。その後、全体会議にて結果を共有し認識すべき人権擁護の観点を共有しました。

## (9) 事業継続体制の整備

### ① 平常時の対策強化

#### ア 災害用備品や食料品の確認と入れ替え

9月に備蓄している非常用食料品の入れ替えを実施しました。その際には炊き出し訓練も実施しています。災害用備品についても追加購入しました。

#### イ 建物・設備の安全対策

駐車場塀・外灯の塗装を実施しています。また車両事故の予防の為駐車場入り口にポールを設置しました。また、川崎愛児園と白山愛児園の大規模修繕計画作成に取り掛かりました。

#### ウ 既存のBCPやマニュアルの見直しに関する検討

未実施

#### エ 他の地域施設との連携強化

市内の福祉施設の災害対策情報共有サイト（川崎市が作成）に登録しました。

### ② 緊急時の対策強化

#### ア 行動基準、組織体制の確立

BCPにおいて行動基準と対策本部をはじめとした組織体制を示し、5月の全体会議で周知しました。6月以降の避難訓練の際には行動基準に沿ったシュミレーションを都度行いました。

#### イ 職員の参集基準リストの作成

職員個々の駆け付けるまでの所要時間や家庭状況（介護や育児で緊急時に来れない等）についてアンケート調査を通してまとめました。参集基準については更なる検討を要するため、令和4年度に取り組む予定です。

## ウ 消防・避難訓練の実施

月1回の訓練を実施しました。

## エ 災害時連絡体制の整備

緊急連絡網を更新しました。緊急時の全職員共有メールシステムも活用し、コロナ対応の際にも迅速な全情報共有に繋がりました。

## (10) 感染予防対策

### ① 感染対策マニュアルの活用と見直し

8月と3月にマニュアルの見直しを実施しました。2月には抗原検査ができる簡易キットを大量に購入し活用しました。こどものコロナワクチン接種については、対象年齢のほぼ全員が2回目の接種を終えています。

### ② 感染対策備品の整備

感知式検温器・パーテーション・空気清浄機・マスク・防護服一式・消毒用品等を必要数、随時購入しました。また、オンライン環境の整備やこどもの余暇活動充実のための玩具購入も並行して進めました。

### ③ オンラインを活用した会議の開催

朝のミーティングも含めた各種会議をオンラインを活用して開催しました。参加人数の多い行事にも活用しています。

## (11) 里親・ファミリーホームへの支援

### ① 相談支援

- ・ファミリーホーム連絡会の参加をし、川崎里親支援専門相談員連絡会での情報共有を行いました。
- ・感染対策を行い、来所相談、電話相談を行いました。
- ・里親委託に向け、対象の入所児童との交流に際し家庭訪問を適宜実施し委託後含めた継続した関係構築に努めました。

### ② レスパイト受け入れ

4名の受け入れでした。受け入れの際にはカンファレンスを実施し、必要な情報の整理を児童相談所を含め行いました。

### ③ 里親・ファミリーホーム向け研修会の企画・開催

令和4年2月開催を計画していましたが、感染症拡大のため中止となりました。

## 2 地域における公益的な取組みの推進

### (1) 川崎市社協 SOS 事業（生活困難者対応）への参加

#### ① SOS 事業 地区会議への参加

開催日	議 題
令和 4 年 3 月 2 日	宮前区加盟団体の代表者会議に参加。来年度の事業内容を協議。

#### ② コロナ禍における困窮世帯への食糧支援活動に参加

コロナ禍での経済活動の低迷により生活困窮者が増えています。市内の福祉事業者が参画する SOS 事業において昨年度に引き続き困窮者への緊急食糧支援を行っています。当法人はその活動に参加しています。宮前区において備蓄拠点（フードパントリー）として協力し、関係機関との連携を図り困窮家庭を支援しています。

### (2) 地域協議会の実施

#### ① 川崎愛児園地域協議会の開催

開催日	議 題
令和 3 年 6 月 9 日	各委員の近況報告、社会福祉協議会との連携について
令和 3 年 12 月 2 日	各委員の近況報告、川崎市の社会的養護推進計画について

#### ② 白山愛児園運営協議会の開催

開催日	議 題
令和 3 年 12 月 7 日	施設現況報告、関係機関・団体より、その他

### (3) 地域交流室の有効活用

川崎愛児園

令和 4 年 3 月 31 日現在

団体名	令和 3 年度 活動日数	令和 2 年度 活動日数	前年度比
ダウン症親の会・manakai	3 日	5 日	60%
子育て支援団体「みやまえ子育て応援だん」	3 日	6 日	50%
宮前第三地区社協 理事会	1 日	0 日	-
スクラップブックワークショップ「sun sun scrap」	1 日	0 日	-
発達障害児保護者団体「ひつじの会」	0 日	5 日	-
高齢者合唱グループ「陽だまりの会」	0 日	0 日	-
幼稚園コーラスグループ「アリエッタ」	0 日	0 日	-
里親支援 NPO 法人キーアセット	0 日	0 日	-
保育園 卒園児交流会	0 日	0 日	-
川崎市里親の会「あゆみの会」	0 日	0 日	-

高齢者カフェ「桃花」	0日	0日	-
子育てママ ピラティス交流会	0日	0日	-
合計	8日	16日	50%

白山愛児園

令和4年3月31日現在

団体名	令和3年度 活動日数	令和2年度 活動日数	前年度比
虹の会, ほんの森	38日	16日	237%
パラマナダ・ヨガ	0日	0日	—
にこりん	8日	0日	—
合計	46日	16日	287%

#### (4) ボランティアの活動支援、育成

川崎愛児園

令和4年3月31日現在

活動名	令和3年度 活動日数	令和2年度 活動日数	前年度比
コスモス文庫（読み聞かせ・本貸出）	29日	27日	107%
調理ボランティア	20日	21日	95%
NKK シームレス プレゼンキッズ	8日	5日	160%
学習ボランティア	5日	29日	17%
音楽ボランティア	3日	4日	75%
理容ボランティア	2日	3日	66%
その他 企業・団体によるボランティア活動	5日	20日	20%
合計	72日	109日	66%

白山愛児園

令和4年3月31日現在

団体名	令和3年度 活動日数	令和2年度 活動日数	前年度比
小学生グループ「はお」	14	0	—
学習ボランティア	94	68	138%
合計	108	68	158%

### 3 子育て短期利用事業

#### (1) 法人全体合計数

令和4年3月31日現在

施設名	令和3年度			令和2年度		
	利用実人数	延利用人数	延べ日数	利用実人数	延利用人数	延べ日数
川崎愛児園	61名	390名	899日	61名	298名	842.5日
白山愛児園	47名	225名	385.5日	38名	183名	379日
合計	108名	615名	1284.5日	99名	481名	1221.5日

## (2) 施設別前年度比

令和4年3月31日現在

施設名	川崎愛児園			白山愛児園		
	令和3年度	令和2年度	前年度比	令和3年度	令和2年度	前年度比
利用実人数	61名	61名	100%	47名	38名	124%
延べ利用人数	390名	298名	131%	225名	183名	123%
延べ日数	899日	842.5日	107%	385.5日	379日	102%

## 4 川崎市学習支援・居場所づくり事業「すえっ子広場」

### (1) 久末地区の市営住宅集会所を利用し、職員・ボランティアを配置して活動

新型コロナウイルス感染症の影響で数週間続けて閉室となった時期があったものの、昨年度よりも実施回数は増えました。3月には6年生4人が卒業を迎えました。最後に集まった子どもたちはみんなで工作をしたことや大勢でご飯を食べたことなど仲間との楽しかった思い出を語ってくれました。また、活動に長年協力して下さったボランティアには川崎市長から感謝状が贈られています。

令和4年3月31日現在

年度	令和3年度	令和2年度	前年度比
利用児童人数	7名	7名	100%
ボランティア人数	4名	4名	100%
実施日数	83日	71日	117%

### (2) 近隣の高齢者施設（社会福祉法人緑成会）との協働

コロナ禍での高齢者との直接的な交流は控えました。

## 5 居場所づくり事業「あいあい」

自主事業である「こども広場あいあい」は開始から丸2年が経ちました。子ども達と地域スタッフとの関係も深まり、年度後半には近所の公園で外遊びをすることが増えました。また、コロナ禍でも対策をしながら食事提供を続けたことは利用の家庭から大変喜ばれました。

令和4年度は新規の利用希望が3名あります。福祉的視点から利用ニーズの高い家庭に効果的にアプローチできるよう模索し、児童数増加に向けて広報を進めていきます。

令和4年3月31日現在

年度	令和3年度	令和2年度	前年度比
利用児童人数	2名	3名	66%
ボランティア人数	10名	13名	77%
実施日数	32日	28日	114%

## Ⅱ 事業所 事業報告

### 1 児童養護施設 川崎愛児園

養育支援においては毎月ケース検討会議を開催し、ケース理解や支援の在り方について検討しました。併せて各ケースの親支援についても検討し家族再統合に向けた取り組みを進めました。入所児童3名が就職及び進学、2名が家庭復帰で年度末に退所しています。退所児支援においては個別の支援計画のもとに支援し、要支援度が高い退所児は「こもれび」の青年期支援機能を活用しました。

人材育成においては下記の重点項目の他、各職員の経験や研修での学びを会議内で発表する場を設け学びの整理や共有を図りました。育成の柱となる指導的職員には階層別研修やリーダーミーティングを通じてスーパーバイズやメンタルサポートに関する手法を共有し、OJT強化に繋げました。

#### 重点項目

##### ① 人材育成の強化

###### ア チューター職員の育成

チューターを担う中堅職員には毎月上長面談を実施し、新任育成を通して自身の成長に繋げていくための振り返りを実施しました。

###### イ 園内研修の更なる充実

法人全体の研修とは平行して、施設内部の研修を複数回実施しました。外部講師を招いた事例検討研修を4回、内部の事例検討研修を6回、権利擁護に関する研修を3回実施しました。

###### ウ 個人計画シート、OJTチェックリストを活用

個人計画シートは作成時と評価時に全職員が施設長と面談しています。面談において、職員個々や部署単位で作成した年間目標の達成度を評価しています。OJTチェックリストについては新任育成の中でチューター中心に活用しました。

##### ② 退所児支援の強化

###### ア アフターケア支援計画の作成

担当者を定め、直近の退所者16名の年間支援計画を作成しました。計画の対象者以外の支援も含め年間を152回のアフターケア（相談、状況確認、就労支援等）を実施しました。

###### イ 退所児の家族サポート

昨年度末で家庭引き取りになった3ケースに対し、訪問・相談の支援を計15回実施しました。家庭引き取り後に保護者が離婚したケースもあり、児童相談所と連携しながらこどもの状況把握と保護者支援を実施しました。

### ③ マニュアル整備

#### ア 各種マニュアルの改訂及び新規マニュアルの作成

感染症対策マニュアルを8月に改訂しました。人材育成マニュアル、ボランティア対応マニュアルの改訂については検討を継続しており、令和4年度での完成を目指します。

#### イ マニュアルの周知徹底と効果的な活用検討

今年度は十分な取り組みができなかったため令和4年度に実施予定です。

### ④ 自立プログラムの強化

#### ア 地域の中小企業と連携したこどもの就労支援に関するネットワーク

連携している市内の中小企業3社が企画した職業体験にこども4名が参加しました。また、保育士養成校と連携して学生主催の入所児対象プログラミング教室を開催しました。

#### イ 自立支援計画に基づいた支援の徹底

支援計画で策定した短期目標を毎月の支援会議で評価しています。また、こども自身が目標を理解した生活ができるよう、計画作成の際にはこどもの意向も取り入れました。

#### ウ 自立に関連した勉強会の開催

SNSに関する勉強会や成人年齢引き下げに関する勉強会（法人合同）を実施しました。それぞれ認識すべき法律や関連する危険性について、専門の方から話をしてもらっています。

## 2 地域小規模児童養護施設 野川つくしホーム

新入所児童が2人加わり新たなスタートを切りました。コロナ禍の為外出などは出来ませんでしたが、ホーム内で出来る遊びをこども達と一緒に企画をして楽しみました。8月にホーム内でのこども間による性的問題が発覚し児童相談所と連携して対応しました。再発防止や安全・安心な生活保障を目指してホーム内で検討しています。

### 重点項目

#### ① 職員、児童が話し合える場所づくり

ア 月1回のホーム会議の実施をしていきます。

月1回のホーム会議でこども達と相談をして、コロナ禍での楽しみ方や日常生活での注意点などを話し合いました。こども達からも積極的な意見などを言い易い様な雰囲気づくりを心掛けました。

イ 日ごろからコミュニケーションを取り、何でも相談できる関係づくりをしていきます。

ホーム会議はもちろん、こども達との関りの中で個別に話せる時間を作り相談に乗り、ストレスの発散や悩みなどの解決出来る関係づくりをして行きました。

ウ 子どもの状況や異変を察知して、職員側からアプローチすることを意識します。

職員よりこどもへ声を掛け、悩み事や不安な事を聞き出せるようなアプローチを測り、迅速な状況把握に努めました。

#### ② 個々の学力の向上

ア 児童一人ひとりにあった学習支援を行っていきます。

こどもの理解度に併せて宿題等を一緒に取組み、理解できるよう努めました。

イ 学習の習慣を身に付けるために、学習ドリルを取り入れることや、児童の状況に応じて通塾や学習ボランティアを利用して、個々の学力の底上げを図っていきます。

通塾や家庭学習用のドリルを購入し、宿題以外でも勉強ができる時間を取っています。各学年の授業に合わせたドリルや、復習を兼ねて全学年のドリルも購入し、分からない箇所をなるべく減らせるよう支援しました。

ウ 学校と情報共有をして、授業状況などを確認していきます。

学校と定期的なカンファレンスや電話等でこどもの情報共有をしています。また、必要に応じて、前日の様子や朝の状態等も電話や送迎の際に伝えました。

#### ③ 個々にあった性教育の実施

ア 児童一人ひとり、年齢にあった性教育の実施をしていきます。

8月の性的問題行動の発覚を踏まえ、こども全員に性に関する正しい知識の説明や生活の安心感に関するアンケートを実施し、その後の支援に繋がりました。また、都度ホーム会議でも距離間の問

題や、ジェンダーの説明等も必要に応じて話をしました。

- イ 児童相談所の心理士・保健師主催の勉強会に積極的に参加し、正しい性の知識を深めていきます。

児童相談所の心理士に協力を仰ぎ、正しい性の知識やこどもの発達に応じた性の勉強をしました。

## 地域における取り組み

### ① 学校や児童相談所等の各関係機関との連携

- ア 各関係機関との連携の強化を図っていきます。

各関係機関へホーム内の様子を定期的に連絡

- イ 電話連絡を密に行い、必要に応じて連携会議等を開き、児童の情報を共有します。

学校や児童相談所との個別ケースカンファレンスを実施

### ② 地域活動への参加

地域の総会、お祭りの手伝い、地域清掃等の地域活動に参加し、顔の見える関係づくりを積極的に行います。

コロナ化で地域のお祭り等は開催中止となりましたが、町内会の活動をしており地域の方々との関係づくりをしています。こども達を含めて日頃の清掃や挨拶等を積極的に行っています。

### ③ 学校行事への手伝いの協力

- ア 学校行事等の手伝いを行います。

運動会の委員協力

- イ PTA 活動にも積極的に参加します。

PTA 活動に参加し、朝の旗振りなど実施

### ④ 各連絡協議会に参加し、情報共有や関係機関の取り組みや新しい情報の収集に努めます。

- ア 地域の連絡協議会に参加します。

コロナ禍のため書面開催

- イ 児童・母子福祉施設協議会に参加します。

児童母子協議会に参加

### 3 地域小規模児童養護施設 野川すみれホーム

今年度は職員の入れ替わりと新入所児2名、本園からの措置変更児1名が加わり、大きな環境の変化がありました。こども達一人ひとりが安心安全に過ごせる快適な場となるよう、お互いを尊重し合える関係作りを目指して支援を行いましたが、周りのことを考えながら生活することが苦手なこどももあり、引き続き支援を行っていきます。

来年度は中高生が5名となり、高学齢児の割合が増えるため、引き続き個々の自立後を想定しながら必要な力を一緒に考え、自立に向けた取り組みを強化していきます。

#### 重点項目

##### ① 個別ケアの強化、優しさ、思いやりのある心を育てる支援をします。

###### ア 意図的に個別の時間を取り、関係性を深めていきます。

個別の時間を意図的に取り、関係性を深めました。お菓子作りを一緒に行ったり、公園に出掛けたり、個別の時間を大切にしました。コロナウイルスの感染対策をしながら個別外出を実施しました。

###### イ 集団生活の中で起こる出来事の中で、見て見ぬふりをしない丁寧な支援や助言、思いやりを持てるような働きかけを行います。

相手に思いやりを持ってない言動があったこどもと振り返りの時間を作り、自分の気持ちと相手の気持ちを整理し、思いやりを持てるよう働きかけました。ホーム会議では一人ひとりが安心安全に過ごせるホームにしていけるよう話をしました。

###### ウ 日々の会話や安心安全チェックリストを通して、子ども達の変化を把握し、必要な支援をしています。

毎月の安心安全チェックリストを実施し、必要な支援を行いました。こどもからは安心安全チェックリストを行ったことで、ストレスを溜め込まずに済んだという意見もあり、来年度も引き続き行っていきたいと思えます。

##### ② 自立に向けて個々に合わせた生活力向上の為の支援をします。

###### ア 日常生活の中で子どもと一緒に、調理や清掃に取り組み、生活する上での知恵や知識を伝えていきます。

調理に興味を持ったこどもは積極的にお手伝いをしてくれていました。職員が掃除をしている姿を見ていたことで、掃除方法を身に付けているこどももいました。

###### イ 自立に向けた講話やプログラム、職場体験などに積極的に参加していきます。

社会的養護自立支援機関のパソナやフェアスタートを活用し、講話やアルバイトの見学、適性検査を受けました。

###### ウ 自立チェックリストを活用し、毎月児童と一緒に目標を立て、振り返りを行い、課題に合わせた支援を行います。

自立支援チェックリストで目標を立てる事で意識しながら生活を送ることもありました。今後も、自立チェックリストを活用しながら出来る事を増やしていきます。

**③ 個々に合わせた学習支援、学習意欲が向上するように支援します。**

**ア 学校や塾の宿題を一緒に取り組み、一人ひとりの学習状況を把握します。**

学校や塾の宿題を一緒に取り組み、一人ひとりの学習状況を把握しました。

**イ 個々の能力に合わせた学習方法を児童と一緒に考え、学習ボランティアや塾の利用、学習支援を行っていきます。**

学習支援を日課に取り入れ支援しました。高校受験のこどもは塾を利用し、受験に備えました。

**ウ 学校と連携を取り、学習状況の把握し、取り出し授業など児童に合った学習支援を学校とホームで行っていきます。**

学習の遅れから登校渋りのあった際に、こどもの気持ちを聞き、学校と情報共有をしながら支援を行いました。

**④ 個々に合わせた性教育を行っていきます。**

**ア 日常生活の中で、年齢に合わせた性教育を積極的に行っていきます。**

日常生活の中で、個々に合わせて必要な性教育を行いました。こども間の距離の近さがあり、適切な距離間について話をしました。

**イ 保健師の指導の元、年齢に合わせた性教育の指導を行っていきます。**

保健師からの講習を受けたり、CAPプログラムに参加したり、年齢に合わせた性教育を行いました。

**ウ 生活の中で命の大切さを感じられるような支援を行っていきます。**

自己肯定感を高められるよう、こどもの気持ちを尊重し、大切にされていると感じられるよう関わりました。

## 地域における取組み

**① 地域行事や清掃活動の参加、地域と近隣住民との良好な関係作りを構築していきます。**

**ア 地域の連絡協議会の参加、地域の草刈り手伝いやお祭りへの参加を児童と共に行います。**

新型コロナウイルス感染症の影響で地域の連絡協議会は開催されていません。今年度は町会の班長として町会費の集金や回覧板を回すなどの役割を行いました。地域の公園の花植えボランティアに参加しました。

- イ 職員、児童共に地域の中で挨拶をしっかり行い、地域住民の方との交流を積極的に行っていきます。

職員が見本となり、率先して挨拶を行う姿をこどもに見せています。地域の方から騒音等で注意を受けることがありましたが、地域の方々は温かくこどもたちを見守って下さっています。

- ウ 地域の資源回収場所として協力します。

ホームの駐輪場のスペースを地域の資源回収場所として協力しました。

- エ 児童と一緒に遊んでいる友人とも関わりをもち、保護者の方とも良好な関係作りをしていけるよう努めます。

こどもの友人の保護者とも職員が繋がり、良好な関係作りをしていけるよう努めました。

## ② 各学校、関係機関との積極的な連携を強化していきます。

- ア PTA活動、家庭学級、登下校のパトロールなどに積極的に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA活動、家庭学級、登下校のパトロールなどの活動が縮小され、参加できていません。

- イ 必要に応じて各学校と児童相談所ケースワーカー立ち合いのもと、カンファレンスを行い、児童状況の把握、情報共有を行っていきます。

各学校と児童相談所ケースワーカーと密に連絡を取り、状況の把握、情報共有を行いました。必要に応じて、学校と児童相談所ケースワーカーを含めたカンファレンスを行いました。

- ウ 学校行事、保護者懇親会、部活動の応援などに積極的に参加し、保護者との関係性も構築していきます。

学校行事、保護者懇親会、部活動の応援などに積極的に参加しました。

## ③ 各連絡協議会への参加で情報収集と情報共有を積極的に行っていきます。

- ア 地域の連絡協議会に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で未開催

- イ 児童・母子福祉施設協議会に参加します。

児童母子協議会に参加

## 4 地域小規模児童養護施設 生田あやめホーム

新型コロナウイルス感染予防対策を行いつつ、余暇活動が充実するよう玩具等を用意し、少人数での外出や、外食を行い楽しい時間を共有しました。

今年度は高校、専門学校受験のこどもがおりましたが、それぞれの努力の結果、無事に志望する学校に合格する事が出来ました。

こども達が自立をしていく上で必要な力を身に付けられるよう、買い物指導や調理指導など、児童に合わせた自立プログラムを実施しました。

### 重点項目

#### ① 自分本位にならず、相手の立場に立って考えられるよう、思いやりの心を育てる支援をします。

##### ア 個別ケアにより情緒の安定と愛着形成を行います。

余暇活動を一緒に過ごし、自立プログラムやお手伝いを通して個別に関わる時間を多くとり、情緒の安定と愛着形成に努めました。

##### イ 日々の関りの中で、自分本位な考えではなく相手の立場に立って考えられるように支援します。

自分の言動が相手にどのような気持ちを抱かせるか、日々の関りの中で気付く事が出来るように、声掛け、支援を行いました。

##### ウ 良い所を十分に褒め、自己肯定感を高め、相手の良い所を積極的に見つけられるよう働きかけます。

「良いこと募金」をこどもも職員も積極的に記入をし、毎月ホーム会議内で発表し、お互いに相手の良い所が見えるように支援しました。こどものお手伝いを褒めることで自己肯定感を高める支援を行いました。

#### ② 学習意欲・基礎学力向上支援を行います。

##### ア 適切な学習教材を提供し、家庭学習の習慣化、学校の成績に結びつくように支援をしていきます。

個々に合わせて適切な学習教材を提供し、繰り返し学習をする事で、家庭学習の習慣化と学力のアップに繋がるよう支援をしました。

##### イ 学校と連携し、学校の宿題や学習の状況を把握し、適切な支援を行っていきます。

学校の宿題を一緒に取り組む事で学習の進み具合や理解度、状況の把握を行い、各こどもの学習課題の設定に活かせるよう支援をしました。

##### ウ 塾と密に連携を取り合い、学力向上の為必要な支援を行っていきます。

塾との面談でこどもの学習状況を把握し、冬期講習や集団講習等、必要なカリキュラム作成を行いました。

③ 後悔のない進路決定が出来るように支援をしていきます。

ア 情報の収集と提供、必要に応じて見学等の支援を行っていきます。

学校見学等を一緒に行い、進路先の選択を行いました。

イ 様々な協力機関と連携し、進路の幅を広げます。

パソナと連携し、アルバイトの面接練習を行い、アルバイトに繋がりました。

ウ 奨学金等、メリットとなる支援が確実に受けられるよう支援をしていきます。

パソナと連携し、奨学金の作文作成、面接練習を行いました。

## 地域における取組み

① 地域行事への参加、清掃活動、近隣との良好な関係作りに努めます。

ア 地域のお祭りや子ども文化センターの行事等、積極的に参加し交流を深めます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のお祭りは実施されませんでした。子ども文化センターの行事は感染予防を行いつつ参加しました。

イ 地域の清掃活動等、子どもと一緒に取り組みます。

定期的な地域の清掃活動等、子どもと一緒に取り組みました。

ウ ホーム周辺の毎日の清掃、近隣住民との挨拶等、交流を積極的に行っていきます。

ホーム周辺の毎日の清掃、近隣住民との挨拶等、良好な関係作りを心掛け、子ども達も良好な関係を築けています。

② 学校との連携、学校のPTA活動への参加に努めます。

ア 必要に応じて学校とのカンファレンスを行い、児童状況の共有を行っていきます。

個人面談や連絡帳、必要に応じて電話連絡等を通して状況の共有を行いました。

イ 学校行事の手伝いやPTA活動、登下校の見守りなど、積極的な協力を心掛けます。

こどもの登下校の送迎等を通して見守り支援を行いました。学校行事のお手伝い等出来る範囲で行いました。

ウ 学校行事や懇談会等に参加し、保護者や担任との交流に努めます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事や懇談会等が中止となりました。

③ 各連絡協議会に参加し、情報共有や関係機関の取り組みや新しい情報の収集 に努めます。

ア 地域の連絡協議会に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の連絡協議会は開催されていません。

イ 児童・母子福祉施設協議会に参加します。

児童母子協議会に参加

## 5 川崎児童自立援助ホーム 大志

今年度は5名の入居がありました。家庭復帰・就労自立・大学進学を決めて3名の退居がありました。大学進学をした児童は、社会的養護自立支援事業のパーソナの協力を得ながら、応募多数あった財団の奨学金を獲得しております。退居者支援といたしましては、現在約20名近い退去者と日々の細かな連絡をとっております。新型コロナウイルスの影響で、孤独な想いを抱える児童も多く、私達も思うような支援が出来なかったこともありました。そんな中でも、通院同行・就労先同行・給付金申請手続き・寄付物品送付などを行ってきました。今後もひとりひとりに合わせた寄り添える支援を行っていきたいと思っております。

### 重点項目

#### ① 生活支援

ア 一般常識と基本的な生活習慣を身につけられるよう支援します。

基本的な生活習慣、健康管理等を日々の会話や月4回の面談にて確認してきました。

イ 健康管理・金銭管理に関する助言、指導に努めます。

金銭管理については、グラフにして貯金や利用状況の確認をしてきました。

ウ 快適な環境を整備、児童自身による整理整頓向上への指導に努めます。

生活の中で都度支援を実施

エ 月一回行われるホーム会議・安心安全チェックで課題を共有し解決・実施します。

月に1回のホーム会議や安心安全チェックで課題を共有し、解決してきました。

#### ② 就労・就学支援

ア 若年労働・低学歴労働者の就労は困難なため、関係機関と連携して就労先の確保ができるように、周辺の企業等に働きかけを行います。

就学支援に関しては、パーソナや学校と連携し、進路の決定や奨学金の作文作成や面接練習を行ってきました。

イ 就労への取り組み姿勢や職場の対人関係等、就労に関する相談に応じます。

就労支援に関しては、継続できるように生活環境や健康状況を整えることで、就労継続に繋げていきました。

ウ 進学を目指す児童には、塾を検討し、進学の幅を広げていきます。

大学進学を目指す子どもがおり、塾を活用しながら受験に備えてきました。

### ③ 自立支援

ア 年度当初のホーム長面接にて、自己目標設定・確認シートを用い、自立に向けた目標の確認を行います。

入居時のホーム長面接にて、自己目標設定・確認シートを用い、定期的に自立に向けた目標と進捗状況の確認を行ってきました。

イ 退所の見込みができた時点で、住居の確保、退所後の支援体制について、関係機関等を交えて、確認していきます。

退所後も継続的な支援ができるように、関係機関と支援体制を連携してきました。

### ④ 他機関との連携

ア 法人内連携

「こもれび」とは合同会議を毎月開催し、連携体制を検討しました。

イ 児童相談所をはじめ、福祉事務所・司法・医療機関・学校等と連携を図り、児童への適切な支援につなげられるように努めます。

児童相談所を始め、福祉事務所、司法、医療機関、学校等との連携を図りながら、児童への適切な支援につなげられるように努めてきました。

ウ 全国自立援助ホーム大会・南関東自立援助ホームブロック・県内自立援助ホーム情報交換会に参加します。

全国自立援助ホーム 実践報告会 南関東自立援助ホームブロック研修・県内自立援助ホーム情報交換会へZoomを利用しながら参加してきました。

## 地域における取組み

① 多種多様な連携会議に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で地域の関連する会議には参加しませんでした。

② 町内会のイベントや行事へ積極的に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の連絡協議会は開催されていませんが、町内会の当番を担い、顔の見える関係性の構築に努めています。

③ 地域住民への挨拶、積極的な交流を図ります。

日々の中で挨拶等を積極的に行っています。

④ 児童・母子福祉施設協議会に参加します。

児童母子協議会に参加

## 6 川崎児童自立援助ホーム こもれび

令和3年度4月1日から開所し地域の方々からも理解をして頂き、1年が経ちました。

今年度の利用者人数の平均は3名でした。短期利用1名・川崎市社会的養護自立支援事業の利用1名が家庭復帰、社会復帰で退居しています。令和4年度4月に就職自立する利用者については社会的養護自立支援事業のパソナの協力を得ながら、就職の定着に力を入れています。高校生は一人ひとりに適した奨学金の情報提供をし、多数の応募の中から内定を頂き、進学や就職自立の準備の為に貯蓄しています。

自立した利用者へ定期連絡を取り、関係機関とも情報を共有して、アフターケアを継続しています。

### 重点項目に対する評価

#### ① 生活支援

##### ア 一般常識と基本的な生活習慣を身につけられるよう支援します。

基本的な生活習慣、健康管理、金銭管理等を日々の会話や月4回の面談にて確認してきました。

##### イ 健康管理・金銭管理に関する助言、指導に努めます。

月4回の面談にて確認・指導してきました。退所に向けた金銭シュミレーションも個別に作成しています。

##### ウ 快適な環境を整備、児童自身による整理整頓向上への指導に努めます。

快適な環境の定義をこどもと共有し、日常的に支援しました。

##### エ 月一回行われるホーム会議・安心安全チェックで課題を共有し解決・実施します。

計画通り開催し、こどもからの要望についてもそこで確認しました。中でも可能なものについては要望に基づきルール変更を行いました。

#### ② 就労・就学支援

##### ア 若年労働・低学歴労働者の就労は困難なため、関係機関と連携して就労先の確保ができるように、周辺の企業等に働きかけを行います。

就学支援に関しては奨学金関係等を学校側と連携し、こどもの負債にならないよう確認しています。また、日々の支援としては予定の確認や遅刻をしないよう支援してきました。

##### イ 就労への取り組み姿勢や職場の対人関係等、就労に関する相談に応じます。

就労支援に関してはパソナと連携し利用者の就労に繋げてきました。

##### ウ 進学を目指す児童には、塾を検討し、進学の幅を広げていきます。

現在は必要性のあるこどもは在籍していません。こどもからの希望もありません。

### ③ 自立支援

ア 年度当初のホーム長面接にて、自己目標設定・確認シートを用い、自立に向けた目標の確認を行います。

ホーム長面接にて自己目標設定確認シートを用い、自立に向けた目標の確認を行っています。

イ 退所の見込みができた時点で、住居の確保、退所後の支援体制について、関係機関等を交えて、確認していきます。

退所の見込みが出来た時点で、住居の確保、退所後の支援体制について、関係機関等を交えて確認してきました。

### ④ 他機関との連携

ア 施設間連携を行います。

「大志」との合同会議を毎月開催し、連携体制を築いています。

イ 児童相談所をはじめ、福祉事務所・司法・医療機関・学校等との連携を図り、児童への適切な支援につなげられるように努めます。

児童相談所をはじめ、福祉事務所、司法、医療機関、学校等との連携を図り子どもへの適切な支援につなげられるように努めてきました。

ウ 全国自立援助ホーム大会・南関東自立援助ホームブロック・県内自立援助ホーム情報交換会に参加します。

全国自立援助ホーム大会、南関東自立援助ホームブロック、県内自立援助ホーム情報交換会に参加しています。

## 地域における取組み

① 多種多様な連携会議に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で地域の関連する会議には参加しませんでした。

② 町内会のイベントや行事へ積極的に参加します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の連絡協議会は開催されていませんが、町内会の当番を担い、顔の見える関係性の構築に努めています。

③ 地域住民への挨拶、積極的な交流を図ります。

日々の中で挨拶等を積極的に行っています。

④ 児童・母子福祉施設協議会に参加します。

児童母子協議会に参加

## 7 まぎぬ児童家庭支援センター

まぎぬ児童家庭支援センターは、長引くコロナ禍の影響を受けながらも感染症対策を実施し継続的に地域の子育て支援や相談への対応を行いました。前年度に引き続き、相談方法は来所に限らず電話やオンラインなど対応の幅を広げて実施しました。

地域課題としては、コロナ禍の影響で親族サポートが得られなくなった子育て家庭の育児負担コロナ禍で子育て家庭が会合イベントが減り、親同士が知り合う機会が少なく孤立感を抱く母親が増えたことを把握しました。当センターでは、子育て家庭が実際に集い活動する「親子カフェ」を感染対策をして実施し、一緒に活動ができる場を開催しました。

### (1) 運営事業

#### ① 相談事業

##### ア 受理人数

令和4年3月31日現在

相談受理人数	令和3年度	令和2年度	前年度比
実人数	191人	150人	127%
延べ人数	464人	440人	105%

緊急事態宣言や新型コロナウイルス拡大予防のため、主要な支援サービスの「子育て短期利用事業」の受け入れ人数を一時的に縮小しながらも、ペアレントトレーニングなどの取り組みを行い新規相談者は増加しました。

##### イ 相談延べ件数

令和4年3月31日現在

経路	令和3年度	令和2年度	前年度比
電話相談	784件	840件	93%
来所相談	304件	244件	125%
訪問相談	104件	86件	121%
心理療法等	136件	106件	128%
メール相談	14件	9件	156%
手紙相談	0件	8件	—
相談延べ件数	1,342件	1,293件	104%

・『訪問相談』の増加は、ショート・デイスティ利用者等において、家庭訪問による支援や状況確認が必要な世帯が増えたことによるものと考えられます。

・『心理療法等』は心理担当職員が担当する定期通所による面接相談が徐々に増加しています。また、ペアレントトレーニング講座を全6回実施したことから、前年度より増加しています。

・センター開設当初からショートステイ利用にて家族支援を行っていた世帯が、中学進学に伴いショート利用対象外となりましたが、引き続き地域での見守り支援が必要なため、通所による継続支援を行いました。

### ウ 相談・指導内容の種別件数

令和4年3月31日現在

種別	令和3年度	令和2年度	前年度比
養護	1,038件 (虐待再掲22件)	1,031件 (虐待再掲8件)	101% (虐待再掲一件)
障がい	87件	16件	544%
非行	0件	0件	—
育成 性格行動	83件	63件	132%
育成 不登校	73件	45件	162%
育成 適性	0件	1件	—
育成 しつけ	32件	71件	45%
いじめ	0件	0件	—
DV	17件	57件	30%
その他	12件	9件	133%
総件数	1,342件	1,293件	104%

種別『障がい』は、ペアレントトレーニング講座において、発達障害の診断を持つ世帯に多く対応したことから前年度より増加しています。

### エ 相談経路別件数

令和4年3月31日現在

種別	令和3年度	令和2年度	前年度比
児童相談所	169件	201件	84%
福祉事務所	64件	59件	108%
区市町村・その他	1件	1件	100%
児童福祉施設・保育所	51件	32件	159%
児童福祉施設・その他	0件	0件	—
保健所及び医療機関	90件	104件	29%
学校等	31件	27件	115%
家族親戚	852件	818件	104%
近隣知人	1件	4件	25%
児童本人	60件	45件	133%
18歳以上本人	6件	0件	—
里親・里子	0件	0件	—
その他	17件	2件	850%
総件数	1,342件	1,293件	104%

経路『その他』は高齢施設等の他分野機関が把握したこどもに関する相談への対応や、DV相談支援のために法律事務所とのやり取りをする機会があり、計上されています。

② 児童相談所からの委託による指導

令和4年3月31日現在

実人数	受託期間	対応延べ数	指導内容種別
1名	令和3年4月～7月	15件	養護

当センターで初めて指導委託を受託しました。もともと実施していた支援を強化し、定期的な訪問やこどもたちのショートステイ利用、関係機関との連絡調整をしながら家庭を支援しました。

③ 関係機関等との連携・連絡調整

令和4年3月31日現在

令和3年度	令和2年度	前年度比
367回	369回	99%

ケースに関する情報共有・相談・連絡・個別支援会議等を各関係機関と実施しました。主な関係機関としては、児相や区役所が多く、その他こどもが所属する小学校・保育園・放課後デイサービスなどと連携を行いました。

④ 子育て短期利用事業に関する相談・調整

お子さんを一時的に預かって欲しいという保護者のニーズに対して、背景にある家族状況や育児負担感について事前に面談を行い、必要な支援を検討し対応しました。ひとり親世帯や保護者に精神疾患のある世帯のみでなく、コロナ禍において両親世帯でも親族等のサポートを得られにくいことから、育児負担感が高まり支援を求める世帯もありました。

○令和3年度の利用実績 ※カッコ内は前年比

令和4年3月31日現在

実人数 61名 (100%)	延人数 390名 (134%)	延日数 899日 (107%)
----------------	-----------------	-----------------

⑤ 予防的支援

ア ペアレントトレーニング講座の実施

「ペアレントトレーニング講座」は全6回講座を年度内に前期と後期に2回実施しました。子育てに難しさを感じている保護者を対象に、子どもとの関わり方の工夫を学ぶプログラムです。講座を通して育児負担感が軽減したり、グループワークでお互いの子育てを知ることで同じような悩みを持つ保護者同士が自助的に繋がることを目的としています。参加者は、ワークを通して子どものポジティブな行動に着目したり、こどもを意識的に褒める練習をすることで、親子関係がより良いものとなることを目指しました。講座終了後も希望者には継続面談の実施などフォローアップを行っています。定期的に開催することで、地域の支援者にも周知されつつあり、児童相談所や区役所、近隣医療機関等からもご紹介をいただきました。当センターの公式LINEから直接申し込みをされる保護者あり、地域ニーズの高さを感じています。

○ペアトレ参加人数

前期 (5月～7月)	7名	後半 (9月～12月)	5名
------------	----	-------------	----

## イ 「親子カフェ」の実施

前年度に引き続き「親子カフェ」と称して手遊びやベビーマッサージ講座、宮前区役所と共催の「ママ・パパ防災講座」などを実施しました。10/12のクラシックコンサートは、「一般財団法人100万人のクラシックライブ」の協力を得て実施しました。コロナ禍でイベントの開催が難しいなかで、生演奏をライブとオンラインで地域の親子に届けることができ、参加者から喜びの声が寄せられました。親子カフェを通して、子育て世帯がリフレッシュできる場・保護者同士が孤立せずに繋がれる場を提供し予防的な取組を行いました。当センター公式LINEの登録者数は100名を超えており、地域の皆さまからも当センターの活動に関心を寄せていただいています。

「親子カフェ」への参加を通じて当センターを知り、当センターが家庭に何か困難が生じたときに相談できる場所として参加者に認知されることを期待しています。

日付	タイトル	参加者(組)
4/2	手遊び・ペープサート(オンライン)	5
5/18	ベビーマッサージ3回講座	6
6/15	ベビーマッサージ3回講座	6
7/13	ベビーマッサージ3回講座	6
9/30	宮前出前講座(家族防災)	5
10/12	100万人のクラシックコンサート	9
11/29	手形・足形アート	9
12/21	クリスマス工作	5
1/18	宮前区出前講座(断乳・卒乳)	5
<b>合計</b>	<b>9回</b>	<b>56組</b>

## ウ 「プレママ・ママの会」への参加

地域で相談できる場としてセンターの存在を知ってもらう機会として、宮前第3地区民生委員児童委員協議会が主催する「プレママ・ママの会」に参加しました。お子さんを出産する段階から地域の支援者として顔が見える繋がりがができることの大切さを改めて感じる機会となりました。

参加日	5/21、7/16、9/17、10/15、11/19、12/17、2/18
-----	---------------------------------------

## エ 「フリースペース カムカム」の実施

夏休みには感染症予防対策を行いながら前年度に引き続き、小学生の居場所支援として「フリースペースカムカム」を実施しました。食事の提供や、余暇活動、学習を行いました利用児童の保護者からは大変好評で「また利用したい」とお声をいただきました。

実施日	7/21、7/28、8/4(参加児童6名)
-----	-----------------------

## ⑥ 地域ニーズの把握と社会資源の開発・運営

地域の民生委員、主任児童委員、行政、教育機関、福祉施設等の関係機関と情報を交換し、地域ニーズに応じて社会資源を開発し運営しています。親子カフェ等の企画を区役所や民生委員児童委員と共催することで、地域ニーズを把握・共有する機会にもなっています。イベント開催時には参加者向けアンケートを実施し、ニーズの聞き取りを行い今後のイベント企画の参考としています。

## (2) こども虐待防止啓発活動

今年度もコロナウィルス感染症の発生により、こども虐待防止の啓発活動として毎年行っていた「オレンジリボンたすきリレー」を中止しました。今年度は、川崎市内のスポーツチームと協働し試合会場で虐待防止のチラシを配布や、オリジナル缶バッジを作成し関係者や来所者に配布するなどして地域への啓発を行いました。

実施日	11/10 川崎ブレイブサンダース開催試合での啓発活動に職員が参加
-----	-----------------------------------

## 8 児童養護施設 白山愛児園

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策の為、例年通りの日常生活とは違い入所児童・職員共に制限された生活を過ごしました。年間を通して入所児童・職員計 18 名がコロナに感染しました。保健所からの指示を基に、陽性者療養期間・濃厚接触者健康観察期間中こども達は園の敷地外には出ず、外部や他ユニットとの接触を避けました。職員は自身が感染しないよう、また他ユニットや外部に感染を広げないように業務に当たりました。この経験を活かしコロナ陽性者対応の経験を基にマニュアル『新型コロナウイルス発生時の対応について』を整備しました。

制限された生活や、行事が中止になる中、何か出来ないかと知恵を絞り、出来る限りの企画を考え、1月に園内行事として、新春まつりを開催しました。

今年度重点項目として実践してきたアフターケアの取り組みから、新たな課題も見られました。新たなプロジェクトとして高校生プロジェクトを立上げ、次年度はリービングケア(入所中における自立に向けた支援)にも力を入れてこども達が自立するための課題や支援を検討していきます。

以下、令和3年度の報告を致します。

### 重点項目

#### ① アフターケア実施要項に基づいたアフターケアの実施

##### ア 状況把握シートを作成します。

4月のアフターケア会議にて退所したこども23名の状況把握シートを作成しました。

##### イ 状況把握シートに基づいてアフターケア計画を策定します。

5月の会議にて状況把握シートを基にアフターケアの必要性が有りとなったこども19名のアフターケア計画を策定しました。

##### ウ アフターケア計画を策定会議に提出し検討し職員会議で報告します。

19名分のアフターケア計画を職員会議で報告しました。

##### エ 実施者がアフターケア計画に基づいて実施します。実施した内容は職員会議で報告します。

アフターケア計画に基づいて実施、毎月の職員会議で報告しました。

##### オ 3月に評価をし、職員会議にて報告をします。

3月に評価を実施、職員会議で報告しました。

#### ② 職場の課題解決に関する取り組み

##### ア 指導者層が中心となり課題と解決方法の検討を行います。

統括指導員1名・主任3名・ユニット主任2名・ホーム長2名で7・9・10月に課題の洗い出し、12・2・3月で解決方法を検討しました。

**イ 各種会議で検討内容を報告します。**

一日の生活支援の見直しから行い、時間外労働の課題を見出し、改善方法などを検討し、職員会議にて報告しました。

**ウ 解決方法を実施します。**

- ・ユニット主任や主任等がユニット職員から1日の動きを確認し、ユニット職員が時間外労働にならないように調整しました。
- ・時間外労働をなくすために職員一人一人の業務把握と一人の職員への業務過多を軽減するためにTo-Doリストを作成し、業務の把握と分散の取り組みを実施しました。

**エ 実施内容を評価し更なる改善へ繋げていきます。**

To-Doリスト作成・実施に対するの評価・見直しや人材育成・定着など、次年度も業務課題について話し合い、改善に繋がります。

**③ メンタルサポーターの導入**

**ア 6月に新任職員に対し先輩職員がメンタルサポーターをマンツーマンで担当します。**

各新任職員が希望した各先輩職員をメンタルサポーターの担当として任命しました。

**イ 業務上の指導はせず、新任職員のところに寄り添います。**

各々のメンタルサポーターがそれぞれの方法で新任職員のところに寄り添いました。

**ウ 相談内容が困難な場合、指導的職員に報告し連携して新任職員を支えます。**

ユニット主任を中心に、必要に応じてメンタルサポーターと情報共有を行っています。

**エ メンタルサポーターの仕組みの評価を行います。改善点を見出し次年度に繋がります。**

新任職員とメンタルサポーターへアンケートを配布します。アンケート結果を基に次年度に繋がります。

**④ 不審者ガイドラインの改定**

統括指導員と主任保育士が中心となり素案をまとめた。令和4年度も引き続き取り組み予定です。

## 9 地域小規模児童養護施設 結

年度終わりに新型コロナウイルス感染者がでました。その経験を活かして感染対策を見直し、より徹底しました。

新型コロナウイルスが少し落ち着いてきてきた頃に、場所を考え、人数を減らし、感染対策をしたうえで公園や映画などに行けるよう企画をし、実施できました。

幼稚園、小学校、中学校と卒業、卒園のこどもがいたため、幼児・小学生は入学前にカンファレンスや学校見学をさせてもらい、中学生は学校や塾と協働し進学先を決めるなど一人ひとりにあった支援に努めました。

退所児は2~3ヶ月に1度、ホームに遊びに帰って来ることがあります。また、職員が会いに行き、状況を把握し買い物や仕事の相談などその退所児にあった支援に努めました。

### 重点項目

#### ① 児童・職員共に安心して生活できる場所づくり

ア 月に1回ホーム会議を実施をし、その中で職員、児童間での意見交換をします。また、日常の中で個別に話をし相談を聞く環境づくりに努め、何でも話せる関係を作っていきます。

中高生はアルバイトや塾で時間が合わない事が多かったので、幼児・小学生、中高生と分けて意見交換の時間を設けました。また、時間を設けずとも日々の余暇、食事の時間等で職員、こどもと話をすることができました。

イ 2か月に1度の頻度でホーム内でのBBQやホーム外出でのキャンプを行い、日々の生活の中でも交流の場を積極的に作れるようにしていきます。

コロナの影響もあり、みんなでBBQや外出をすることが出来ませんでした。家で出来る工作やピーズ、スライム作り、公園で体を動かすなどできることで楽しく過ごしました。また感染対策を徹底した上で個別外出を実施しました。

ウ 職員同士で情報の共有をこまめに行い、子ども像を共有し客観的に捉え、支援に努めます。

日々の引継ぎだけでなく、月に1.2回ミーティングを実施しました。職員同士でこどもの気になる点、困り感を共有し、支援に取り入れ実施しました。

#### ② アフターケア

ア こまめに連絡をとり、退所後の生活の様子や職場での困り感などを聞きます。

退所児が2名おり、それぞれの担当が連絡を取り、状況を把握し、担当でない職員に連絡が来た時は共有し、支援しました。

イ 卒園児をホームに招き、入所児と一緒に食事をしたり、行事や外出に参加してもらう中で、仕事等の悩みや不安等を聞いたりして、リフレッシュに努めます。

コロナの影響もあり、食事や外出に誘う事は出来ませんでした。ホームに帰ってきた際はこどもたちは嬉しそうにしており、職員と困りごとなどだけでなく、プライベートの話や談笑しリフレッシュできるように心がけました。

ウ 定期的に卒園児宅を訪問し、家の様子を把握し、掃除や家事等を手伝う事や買い物への同行を通して、生活での困り感や不安を聞き出し解消していきます。

3ヶ月に1回程度の訪問を実施し、家の様子を把握、家事や買い物など、一緒に行い支援しました。

## 地域における取組み

### ① 学校や児童相談所等の関係機関との連携

ア 日々の小さな変化も都度連絡を取り合い、必要に応じて連携会議等を開き児童の情報共有に努めます。

家族について動きのある児童は児童相談所と協働して支援に努めました。学校においての不安、困り感がある児童は学校や児童相談所と連絡を密に取り、情報共有し支援の方向性を検討しました。

イ 勉強面や授業での困り感を把握し、取り出し授業や通級指導教室を利用するなど学校と連携します。学習支援員や塾とも連携し子どもの学習支援に努めます。

小学生に関しては学校の担任や児童支援コーディネーター、園の学習支援員、心理士と協働し、こども1人ひとりにあった支援を検討しました。

ウ 学校行事や懇談会、委員会等に参加し、保護者との交流に努めます。

実施された行事や懇談会に参加しました。幼稚園児においては送迎の際に、保護者の方と話し交流することで関係が深まりました。

### ② 地域活動への参加

ア 毎週行っているパトロールに積極的に参加し、地域の安全強化に努めます。

こどもと犬の散歩をする際に地域の方と話をしたり、危ない場所をこどもたちに伝えました。

イ 地域の防災訓練や公園の草むしりなど積極的に参加します。

公園の草むしりに参加

ウ 地域の野球クラブ等の習い事や幼稚園、学校での行事や委員会などに参加し地域のとの交流を深めます。

地域の野球クラブでは当番だけでなく練習を見に行くことで保護者の方との交流がありました。幼稚園では役員や行事、送迎等で保護者の方との交流を持ちました。

## 10 地域小規模児童養護施設 紬

開所し、1年が経ちます。子どもも職員も日々楽しく過ごしています。

子どもが1名新型コロナウイルスに感染してしまいましたが、その後の対応を今まで以上に徹底し、広がることなく終息しました。年度終わりには新型コロナウイルスも少し落ち着いていたので場所や人数、感染対策をしたうえで外出し、子どもたちも楽しく過ごせました。

近所の公園掃除には月2回参加し、地域の方々と交流が深まっています。

学習に関しては本園の学習支援員や学習ボランティアの方に子どもに合わせた学習のサポートをしてもらい、中学3年生の子どもが無事高校進学することが出来ました。

### 重点項目

#### ① 子どもが安心できる環境の中で子どもと職員が良い関係を築き楽しい場所にする

ア ホーム会議を実施し、子どもと共に楽しい環境を築きます。

子どもたちに意見を聞き、感染対策をしたうえでパーティーをしたり、ゲーム大会、プロジェクトを購入し、映画のような気分でDVD鑑賞をするなど楽しく過ごせました。

イ 「自分の家」と思える場所にする為にも日々の生活の中で楽しいこと、困ったこと等話せる環境を作ります。

ホーム会議だけでなく、日々の生活の中で子どもたちの話に耳を傾け、何をしたい、何が困ったなどの意見を受け止めました。職員同士でも些細なことで気付いたことがあれば全体で共有し支援に努めました。

ウ ミーティング等で子どもの些細な事も共有し、より良い支援ができるようなチームアプローチを心がけます。

ミーティングや引継ぎでこまめに子どもの変化等を共有し、より良い支援に努めました。

#### ② アルバイトや部活、習い事などの活動を奨励し、豊かな経験が積めるよう支援する

ア やりたいことや好きな事に興味を持ち、力を注いで取り組めるようにフォローしていきます。

習い事を考えていた子どもに対していくつか興味のあるものを提案し、体験に参加することができました。

イ 社会経験が身につくように、いろんな経験をできる環境設定、情報の提供に努めます。

アルバイトをしていた子どもが辞めてしまい、一緒に探すなど再度取り組めるようにフォローしました。

ウ 子どもだけでなく職員も一緒に参加できることには参加し、共に取り組む姿勢を目指します。

高校進学に向けて子どもと進学先を探し受験までフォローしました。高校生の子どもとは専門学校のオープンキャンパスに参加し、進学に向けて情報収集に努めました。

## 地域における取組み

### ① 地域活動への積極的な参加

ア 地域の状況を知るためにも、掲示板や回覧板等で地域行事の情報を集め、行事に参加します。

コロナの影響でほとんどの行事は参加できませんでしたが、近くの公園や神社で祭りが行われていたので参加しました。また、毎月2回行われる公園の掃除には毎回参加することができました。

イ 近所の人と挨拶を交わし、地域性を知り、交流を深めます。

毎月行われる公園掃除やゴミ捨てで近所の方との交流があり、こどもも参加し、登下校の際に挨拶するなど覚えてもらうようになりました。

ウ 習い事や学校行事を通じて地域活動へ参加し交流を深めます。

小学生が習い事を始めるにあたり、年度末に体験に行き入会することになりました。学校行事はあまりなく参加することができませんでした。

### ② 学校や他機関との連携

ア こども一人ひとりに応じた支援が出来る様にそれぞれの学校と連携を取り、こども像の共有し支援に努めます。行事や懇談会、教育相談には積極的に出席し、よりこまめに学校との連携に努めます。

支援が必要なこどもは個別に学校に電話し、学校の様子を共有し、他のこどもは面談や教育相談にて確認し、学校の様子を先生と共有し、支援に努めました。

イ 学校だけでなく塾や白山愛児園の学習支援員とも連携し、日々の生活の中で学力の定着に取り組めるよう支援します。

受験生がいたため、塾や学習支援員と協働し対策をしました。他のこどもたちも塾や学習支援員と日々学習を積み重ねています。

ウ こどもの現状、家族状況に関して、児童相談所や本園とこまめに連絡を取り、情報を共有し支援に努めます。必要に応じてカンファレンスを行い、より良い支援に努めます。

年度末にきょうだい交流が始まったこどもがいたので児童相談所や本園と丁寧に連絡を取り、きょうだい交流に繋げました。またこどもから家族についての話が上がったときは話を聞き、児童相談所へ情報共有し支援に努めました。

## 11 はくさん児童家庭支援センター

今年度は、外部からのスーパーバイザーを招き、ケースワークの体制を整理しました。センター長、副センター長、相談員、心理士全員でケースの受理時に受理会議を毎週火曜日に行い、援助方針を策定する援助方針会議を毎月1回、全ケースの進捗状況を確認する進行管理会議を月1回実施しました。職員全員で行うことで、援助方針がはくさん児童家庭支援センターとして承認されたものになり、ケースワークの積み重ねができる体制が強化されました。

SNS の開設に関しては公式 LINE アカウントを開設し、定期的に子育てに関する情報提供を実施しました。

開設して8年、援助の質を高め「地域の中での養育と子育て支援」の専門機関として、利用者に対してきめ細やかな支援を実践しました。

### (1) 運営事業

#### ① 相談事業

##### ア 受理人数

令和4年3月31日現在

相談受理人数	令和3年度	令和2年度	前年度比
実人数	151人	128人	118%
延べ人数	344人	302人	114%

当所でコロナ陽性者が発生したため児家センの業務の一部を停止する期間がありました。

##### イ 相談延べ件数

令和4年3月31日現在

経路	令和3年度	令和2年度	前年度比
電話相談	720件	775件	93%
来所相談	475件	404件	118%
訪問相談	57件	79件	72%
心理療法等	57件	91件	63%
メール相談	10件	17件	59%
手紙相談	6件	33件	18%
相談延べ件数	1325件	1399件	95%

・相談受理人数の増加に比べ、相談延べ件数が減少：継続的な相談につながりにくいケースが増えたことや、他機関を紹介した単発の関わりが多かった為、減少しました。

・心理療法等の減少：発達の違いによるコミュニケーションの課題があるケースの相談が多く、心理士との個別の支援から集団での支援（小学生グループ）へつなげた為、減少しました。

・手紙の減少：令和2年度の緊急事態宣言中の休校期間に、家庭で取り組める課題や工作を郵送した為一時的に増加したものであり、今年度は対面での面接等が実施出来た為減少しました。

## ウ 相談・指導内容の種別件数

令和4年3月31日現在

種別	令和3年度	令和2年度	前年度比
養護	675件 (虐待再掲 333件)	837件 (虐待再掲 366件)	81% (虐待再掲 91%)
障がい	259件	247件	105%
非行	0件	2件	—
育成 性格行動	178件	109件	163%
育成 不登校	106件	145件	73%
育成 適性	0件	0件	—
育成 しつけ	3件	8件	38%
いじめ	1件	0件	—
DV	0件	0件	—
その他	103件	51件	210%
総件数	1325件	1399件	95%

- ・養護の減少：他機関との連携の回数が減った為、減少しました。
- ・不登校の減少：一昨年度不登校のケースを障害に変更した為、減少しました。

## エ 相談経路別件数

令和4年3月31日現在

種別	令和3年度	令和2年度	前年度比
児童相談所	117件	183件	64%
福祉事務所	37件	43件	86%
区市町村・その他	5件	1件	500%
児童福祉施設・保育所	44件	46件	96%
児童福祉施設・その他	0件	0件	—
保健所及び医療機関	115件	118件	98%
学校等	65件	47件	138%
家族親戚	646件	682件	95%
近隣知人	1件	1件	100%
児童本人	275件	258件	107%
18歳以上本人	0件	0件	—
里親・里子	6件	0件	—
その他	14件	20件	70%
総件数	1325件	1399件	95%

## ② 関係機関等との連携・連絡調整

令和4年3月31日現在

令和3年度	令和2年度	前年度比
279回	323回	86%

・緊密な連絡を要するケースとの関わりが減少したため、児童相談所の件数並びに連携・連絡調整が減少している。

## ③ 子育て短期利用事業に関する相談・調整

ア 利用実人数：47名 延日数：385.5日

保育園での一時保育の中止や、通所している保育園の陽性者発生による休園に伴い、預け先を求める保護者からのニーズが高まり、件数が増加しました。

## ④ 地域のニーズに応じた子育て支援事業

ア 乳幼児の子育て相談支援・フリースペースの提供

・子育てスペース・ママン（開催日時 原則 毎月第1水曜日・10時～12時）

4/14 保護者；3名 子ども；3名

5/12 保護者；5名 子ども；5名 （うち新規2組）

6/ 2 保護者；5名 子ども；5名

7/ 7 保護者；3名 子ども；3名

8/ 4 保護者；2名 子ども；2名

9月；中止

10/ 7 保護者；3名 子ども；3名

11/11 保護者；4名 子ども；4名

12/ 2 保護者；4名 子ども；4名

1/13 保護者；4名 子ども；4名

2/ 3 保護者；3名 子ども；3名

3/17 保護者；2名 子ども；2名

3/24 保護者；5名 子ども；6名

・ミニママン（開催日時 毎週木曜日・10時～13時）

コロナ禍での実施は困難として昨年度に引き続き中止しています。

**イ 相談対応ケースの内、保護者に時間的、精神的、経済的な余裕がないケース、または子どもに発達の偏り等があり、一般的に子どもが経験できる活動や余暇体験が得にくい環境にあることにも対する個別・グループ活動**

・はお

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数	5	4	4	4	0	6	5	3	6	3	4	3	47
延べ人数	16人	13人	13人	12人	0人	14人	12人	10人	16人	11人	15人	16人	148人

・季節のイベントはお・ハオ！

6月20日（柿生分庁舎） 参加児童；11人、ボランティア；3名

1月8日（体育館） はおオリンピック 参加児童；11人、ボランティア；5名

**ウ 発達に課題のあるお子さんを支える保護者のための講座  
（協力：麻生区地域みまもり支援センター）**

・親オヤ講座として、4回の研修会を開催することができました。

i 6/8(火) 10:00～12:00 @麻生区役所 保健ホール 受講者：11名

テーマ 発達に偏りのある子への理解と対応

「子どもが抱える困難さ」背景として考えられること、対応のしかた

講師 元神奈川県発達障害支援センター神奈川A(エース)ケースワーカー 吉澤宏次氏

ii 7/12(月) 10:00～12:00 @麻生区役所 保健ホール 受講者：17名

テーマ 発達に偏りのある子への理解と対応～中学で受けられる支援・家での対応～

講師：川崎市特別支援教育センター指導主事 中澤英之氏

特定非営利活動法人さしす代表理事 川上晶生氏

iii 12/14(火) 10:00～12:00 @麻生区役所2階

テーマ 家族みんなで生き生き暮らすために 受講者；6名

講師；元神奈川県発達障害支援センター神奈川A(エース)ケースワーカー

吉澤宏次氏

iv 1/25(火)10:00～12:00 @麻生区役所2階

テーマ 小学校での支援 受講者；6名

講師；元；長沢小学校・児童支援コーディネー 鈴木優子氏

**⑤ 広報・啓発活動**

**ア 関係機関への訪問・広報**

年度当初に関係機関に当センターの説明を行いました。

(児童相談所、区役所、小中学校の校長およびコーディネーター、療育センター等)

**イ 公式LINEアカウントの開設、定期的な子育てに関する情報提供**

LINEのアカウントを設定し、利用者への情報を提供しています。

**ウ 白山地区子ども関連4施設事業の広報紙「はくさんクローバー通信」を年4回発行しました。施設内や地域の小児科等へ配布しました。**

**⑥ 研修会への参加**

- ・全国児童家庭支援センター協議会主催 児童家庭支援実務者オンライン研修会  
「ソーシャルワークの道標」7/2(金)9:30~12:30
- ・地域ケア推進研修「ネット、ゲーム依存の基礎知識」7/16(金)13:30~16:30
- ・神奈川県社会福祉士会 2021年度実習指導者フォローアップ研修  
9/5(日)10:00~12:00
- ・県心理士会研修 10月
- ・関東地区児童家庭支援センター基礎研修会 10/15(金)10:00~16:00
- ・全国児童養護施設長研究協議会 10/27(水)10:00~16:30
- ・子どものこころの健康を考えるシンポジウム  
「愛着障害をめぐって～愛着障害って何だろう？」
- ・関東地区児童家庭支援センターSW研修会 12/7(火)13:00~16:50
- ・自殺予防に関する包括的研修 12/20(月)14:00~16:00
- ・県心理士会研修 2/21(月)
- ・関東地区児童家庭支援センター心理研修 2/28(月)
- ・FSW研修

**(2) こども虐待防止啓発活動**

**① オレンジリボンたすきリレーへの協力**

昨年に引き続き中止となり、その代替の啓発活動を市内の関係機関にて実施しました。

**② 市内児家セン連絡会、市・区、社会福祉協議会によるイベントでの虐待防止啓発活動**

コロナ禍では従来通りのイベント等の開催ができない為、その代替案を市内のセンターと協議しました。

## 別紙1 在籍児童数

### 児童養護施設 川崎愛児園

令和4年3月31日現在(定員42名 在籍35名)

学年	2歳	年少	年中	年長	小1	2	3	4	5	6	中1	2	3	高1	2	19歳	合計
男	2	2	1	0	1	2	1	2	2	1	2	1	1	2	2	0	22
女	0	0	0	2	1	1	1	3	0	0	0	0	3	0	1	1	13
計	2	2	1	2	2	3	2	5	2	1	2	1	4	2	3	1	35

### 地域小規模児童養護施設 野川つくしホーム

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍6名)

学年	小2	小3	小6	中1	高1	合計
男	0	0	1	0	1	2
女	1	2	0	1	0	4
計	1	2	1	1	1	6

### 地域小規模児童養護施設 野川すみれホーム

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍6名)

学年	小5	中1	高1	高2	高3	合計
男	1	1	0	0	1	3
女	0	0	1	2	0	3
計	1	1	1	2	1	6

### 地域小規模児童養護施設 生田あやめホーム

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍6名)

学年	小3	小6	高1	高3	専1	計
女	2	1	1	1	1	6
計	2	1	1	1	1	6

**川崎児童自立援助ホーム 大志**

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍5名)

学年	16歳	17歳	19歳	20歳	計
男	0	0	0	1	1
女	1	2	1	0	4
計	1	2	1	1	5

**川崎児童自立援助ホーム こもれび**

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍5名)

学年	17歳	18歳	19歳	20歳	計
男	2	1	1	1	5
女	0	0	0	0	0
計	2	1	1	1	5

**児童養護施設 白山愛児園**

令和4年3月31日現在(定員30名 在籍26名)

	2歳	年少	年中	年長	小1	2	3	4	5	6	中1	2	3	高1	2	3	その他	合計
男	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	1	1	1	0	9
女	0	0	1	0	1	1	0	3	3	1	1	2	0	1	2	0	0	16
計	0	0	1	0	2	2	1	3	5	2	1	2	0	2	3	1	0	25

**地域小規模児童養護施設 結**

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍6名)

学年	年長	小5	小6	中3	高2	合計
男	1	1	0	1	0	3
女	0	0	2	0	1	3
計	1	1	2	1	1	6

地域小規模児童養護施設 細

令和4年3月31日現在(定員6名 在籍5名)

学年	小 1	中 1	3	高 1	合 計
男	1	1	0	0	2
女	0	1	1	1	3
計	1	1	2	1	5

## 別紙2 職員配置

児童養護施設 川崎愛児園

令和4年3月31日現在

職種	施設長	事務員	個別対応職員	家庭支援専門相談員	栄養士	調理員等	嘱託医	心理療法担当職員	里親支援専門相談員	保育士・指導員	地域コーディネーター	学習支援員	労働時間短縮職員	合計
令和3年度	1	1	1	1	1	4	1	1	1	24	1	1	0	38
令和2年度	1	1	1	1	1	4	1	1	1	29	1	1	1	44
増減	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	-5	±0	±0	-1	-6

地域小規模児童養護施設 野川つくしホーム 令和4年3月31日現在

職種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	4
増減	±0

地域小規模児童養護施設 野川すみれホーム 令和4年3月31日現在

職種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	4
増減	±0

地域小規模児童養護施設 生田あやめホーム 令和4年3月31日現在

職種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	4
増減	±0

川崎児童自立援助ホーム 大志 令和4年3月31日現在

職種	保育士・指導員
令和3年度	5
令和2年度	4
増減	+1

川崎児童自立援助ホーム こもれび 令和4年3月31日現在

職 種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	0
増 減	+4

まぎぬ児童家庭支援センター 令和4年3月31日現在

職 種	相談員	心理士	合 計
令和3年度	2	1	3
令和2年度	2	1	3
増 減	±0	±0	±0

児童養護施設 白山愛児園

令和4年3月31日現在

職 種	施設長	事務員	個別対応職員	家庭支援専門相談員	調理員等	嘱託医	心理療法担当職員	里親支援専門相談員	保育士・指導員	地域コーディネーター	学習支援員	学習支援員(非)	労働時間短縮職員(非)	看護師(非)	合計
令和3年度	1	1	1	2	4	1	1	1	26	1	1	0	0	1	41
令和2年度	1	1	1	2	4	1	1	1	25	1	1	1	1	1	42
増 減	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	+1	±0	±0	-1	-1	±0	-1

地域小規模児童養護施設 結 令和4年3月31日現在

職 種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	4
増 減	±0

地域小規模児童養護施設 紬 令和4年3月31日現在

職 種	保育士・指導員
令和3年度	4
令和2年度	0
増 減	+4

## はくさん児童家庭支援センター

令和4年3月31日現在

職 種	相談員	相談員(非)	心理士	合 計
令和3年度	2	1	1	4
令和2年度	2	1	1	4
増 減	±0	±0	±0	±0

## 法人全体 令和4年3月31日現在

職 種	法人全職員
令和3年度	115
令和2年度	113
増 減	+2